

東京音楽大学リポジトリ

Tokyo College of Music Repository

ライブラリー・セミナー報告

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-01-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 東京音楽大学附属図書館 メールアドレス: 所属:
URL	https://tokyo-ondai.repo.nii.ac.jp/records/943

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



ライブラリー・セミナー報告

当図書館では、学生や地域の方々にいろいろな楽器の音や貴重なレクチャーをお聴きいただく機会となるよう、国内外の講師を招聘して様々なセミナーを開催しています。(入場無料)

◆ チター レクチャーコンサート ～魅惑の弦楽器を解説と演奏で楽しむ～

2013年10月24日(木) 東京音楽大学 J館スタジオ

講師：Professor Wilfried Scharf ヴィルフリート・シャルフ教授(チター奏者)
通訳：常石さやか(チター奏者)

チター奏者、指導者として活躍するヴィルフリート・シャルフ教授をお招きし、楽器の解説とともに芸術的な演奏を披露していただきました。

チターの歴史は古く、ヨーロッパの国々を渡っていく過程で、構造や外形に様々な改良が加えられ、製作された時代ごとに違った特徴を持っています。セミナーでは、そういった楽器の形、奏法の変化に焦点をあてながらレクチャーしていただきました。

チェンバロに似たその響きはどこか素朴で懐かしく、長い時をかけて人々の手を渡り愛されてきた温もりが感じられる音色でした。



◆ ウィーン楽友協会アルヒーフ室長による特別講演「第九初演の真実」

2013年11月11日(月) 東京音楽大学 J館スタジオ

講師：Professor Dr. Otto Biba オットー・ビーバ博士 (ウィーン楽友協会アルヒーフ室長)

通訳：武石みどり (本学音楽学教授)

世界屈指の貴重な音楽資料の所蔵と管理を司るウィーン楽友協会アルヒーフ(資料室)室長、オットー・ビーバ博士による特別講演会を開催しました。

1824年にウィーンで行われた、ベートーヴェン作曲「交響曲第9番ニ短調『合唱付き』」の世界初演。すでに聴力を失っていたベートーヴェンがその練習と初演に立ち会う様子、当時としては革新的であった楽曲に対する奏者と聴衆の反応、当時のコンサート開催、作曲家の立場、演奏スタイルの習慣についてなど、ビーバ博士からしか聞くことのできない貴重なエピソードをお話いただきました。

セミナー当日は学内外問わず大勢の受講者にお集まりいただき、講演終了後も熱心にビーバ博士に質問をする姿が見られました。当図書館からはテーマに関連した貴重資料をロビーに展示し、ご来場の方々にはそちらもお楽しみいただきました。

